

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第3回ふじのくに未来のエネルギー推進会議
事務局 (担当課)		静岡県経済産業部産業革新局エネルギー政策課
開催日時		令和4年3月15日(火) 午後3時～午後4時
開催場所		静岡県庁別館9階特別第二会議室
出席者	委員	5人(別紙名簿のとおり)
	事務局	10人(静岡県、エネルギー政策課長、班長、主査、その他)
会議次第		1 開 会 2 議 事 (1) 現「ふじのくにエネルギー総合戦略」の取組状況 (2) 次期「ふじのくにエネルギー総合戦略(案)」 3 閉 会

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

2 議事

(1) 現「ふじのくにエネルギー総合戦略」の取組状況

○井上) P2のバイオマスや中小水力、温泉熱は、全国的にも難しい状況である。導入までに1年以上の調査を行うので、拡大を図るのはなかなか難しい。太陽熱利用がC評価となっているが、熱利用はもっと上を目指してほしい。太陽光発電のメリットが強調されており、熱利用がなかなか進まないが、熱利用はエネルギー効率が良いので県民の皆様に薦めて頂きたい。最終エネルギー消費量の削減も進んでおり、今後、再エネに加えて省エネも含めて進めていけば、より良いのではないか。

○山本) 温暖化の問題やエネルギー政策は、一つに地域でできることは限られているため、地球全体の取組・国の取組が非常に重要である。静岡県が目標を出して進捗を評価することは大事であるが、地球温暖化の問題は全体の進捗を考える必要があるため、日本全体でどのようなことが行われているのか、そのなかで静岡県はどうかといった視点があった方がよい。今後、バイオマス発電が2案件あるとのことだが、これにより付加価値額がどのくらい増えるのか、雇用がどのくらい増えるのかといった視点が重要である。

これから化石燃料から離れていくと、静岡県は自動車など、特定のエネルギーに依存している産業が多いので、雇用、経済という点では不安が出てくる。そのような観点も必要である。

○福原) 太陽光発電のA評価は、県の特色を活かしていると感じる。FITが縮退となるなか、今後どのようにA評価を続けていくのか、現状の太陽光パネルの利用状況や、得られた再エネ電力がどのように利用されているか、余っているところ・足りないところというのが分かれば、どこにパネルを置けば良いのかと言った施策が出てくるのではないか。

太陽熱を活用することが重要で、蓄熱するシステムが必要である。蓄電池はコストが高いが、太陽熱は安い材料での蓄熱材ができる可能性があり、具体的にはシリカゲルを使った安価で豊富に溜められる蓄熱材の技術開発ができると、太陽熱利用が広まると思う。

バイオマスはC評価であったが、なかなか利用するにはハードだと、県民にも認知され始めたと感じる。利用を促進するには、例えばバイオマスを使った家庭内の冷暖房といった技術の紹介などを、地道に、かつ継続的に行うことが肝心である。

○齋藤) 民生用はエネルギーを熱として利用することが多いので、太陽光で発電して、また熱にするのではなく、熱は熱のまま利用することが効率的なので、それを広めることが大事。

資料4ページに最終エネルギーの消費量の推移があるが、経済的な指標との関連はどうであるのか、考察する必要がある。エネルギーの安全保障とカーボンニュートラル両立が重要である。

(2) 次期「ふじのくにエネルギー総合戦略(案)」

○福原) 戦略案の内容は妥当である。電化を推進し、出来ないところは脱炭素のエネルギー導入を推進すると区分けしている点が良い。

39ページから40ページで、次の世代が主役であるとメッセージを残したことは評価できる。

○山本) エネルギーの安定供給は大きな問題となっている。脱炭素は目標ではあるが、競争力のあるエネルギーと安定的なエネルギーの政策も考えていかないといけない。ヨーロッパは今、農産物の残さや動物の糞尿からバイオマスガスを作っている。我々もそうしたことも考えなければいけない。

○井上) かなりしっかりとした計画となっている。34ページの省エネの目標回数は、現状値を踏まえてもっと上げてよいのではないかな。

○齋藤) よくまとめていただいた。資料3は理解がしやすいと思う。

パブリックコメントの中で省エネ意見が1件だけであるが、一番省エネが重要だと考えている。

39ページに「化石賞」が記載されているが、違和感を感じる。ノーベル賞をいれた方がよいのではないかな。

エネルギーの安全保障がものすごく重要である。県レベルでどのように考えていくかということが課題である。